

私の栄光への道

今井 優菜

平成二十四年一月十七日火曜日。川戸小学校での練習に初めて参加しました。大きな希望と小さな不安を胸に緊張しながら、体育館に向かった事、昨日のように思い出します。

私の心配をよそにみんなが優しく声をかけてくれて教えてくれたおかげで、すぐにチームになじむ事ができ、いっきに不安は無くなりました。

入部して五日目、初めての遠征で鎌ヶ谷中部に行き、バックで試合の出させてもらいましたが、極度の緊張と遠慮で思うようなプレーができませんでした。

毎日練習にはげみ迎えた大山杯。七十一チーム中、見事優勝する事ができました。

二月に入り、新人戦の支部予選。スターキッズに一セット取られたけど、順調に勝ち進み決勝のミサキ戦。全員サーブが良かった事とバックの二人の活躍で攻撃につながり、優勝することができました。「やったー」といううれしい反面、「スゴイチームに入っちゃったなあ」と気持ちを引き締めました。

三月末、監督から「セッターをやってみよう」と言われ、バックとセッター両方の練習をする事になりましたが、バックしかやった事のない私は正直戸まどいしました。戸まどいながらも練習を重ね、むかえた全日本決勝リーグ。決勝戦で千種ジュニアとあたり、一セットもあたえる事なく優勝し、全国大会の切符を手に入れる事ができました。あの時の興奮は一生忘れません。

そしてむかえた全国大会。順調に勝ち進み、苦手なバンビーナ戦。自分たちの流れにもっていき、セットを落とす事なく勝ち、四日目決勝リーグに残りましたが、大阪柏原戦で相手のミスチャンスをにつなげられずムードが悪く、平凡なミスをくり返してしまい、一セットも取れずベスト八で終わってしまいました。

悔しさを胸に新たな気持ちでむかえた関東大会。宮原と並四に一セットずつ取られ、悪戦苦闘しながら念願の関東大会優勝。「関東で優勝するのは全国で優勝するより難しいだろう」と言われていたので、優勝が決まった瞬間は記憶がとぶほどうれしかったです。

そして私達は残るスポ少にむけ、スピード・高さ・正確性・講習の連けいを常に意識し練習にはげみました。

スポ少予選。難なくクリアし、決勝リーグ。クローバーと大津が丘戦で油断したミスが続き、一セットずつ取られましたが、準決勝では落ち着いたプレーを取り戻し、決勝戦。千種ジュニアを下しスポ少全国高知大会の出場権を手に入れました。

私達の集大成となるスポ少全国。十二年の美を頭に最高峰を目指し頑張りましたが、全国の壁は高く、フルセットまでもちこし悪戦苦闘しながらの決勝リーグ。青森県の選

抜チームに勝てず、ベスト八という結果で終わってしまいました。勝てた試合ただけに悔しさで一杯です。この悔しさを忘れず、これからのバレー人生につないでいきたいです。

あっという間でしたが、中身の濃い充実した一年と二カ月でした。色々な経験をし、数々の成績を残すことができたのは監督を初め、コーチのみなさん、保護者のみなさん、関係者のみなさんのおかげだと心から感謝しています。突然入部してきた私を優しく受け入れ、共に頑張ってくれたチームのみんな本当にありがとう。

私は念願の千葉中央に入れた事、全国大会二回出場、関東制覇を通し「努力は決して裏切らない」「願いは必ずかなう」という事を知りました。

中学校へ行っても中央で教わった事を忘れず、日々努力して一念通天の精神で頑張っています。

本当にありがとうございました。